

ジュニアリーダーを知る

【JLの役割って何？】

「子どもたちを
楽しませる。」
「子どもたちの
見本になる。」
「大人と子どもの
架け橋」
「地域のために
活動する。」

JLの声



【JLがいると いいことは何？】

「年齢が近いの
で子どもたちが
親しみやすい。」
「明るくなる。」
「地域活動に
役立ってくれる。」

大人の声

子どもたちの頼れるおねえさん・おにいさん



地域の子どもたちの活動をサポートする。
子どもたちを楽しませる。
ボランティアをする。
子どもたちの手本となる。

☆大人と子どもの橋渡し役。
☆子ども会活動の応援・ボランティア。
☆地域でのコミュニケーションづくりに一役買っている。



将来、まちづくりに関わる人になってくれる。
様々なかたちで、次世代のリーダーとなってほしい存在。

大人の方へワンポイント講座1 JLはジュニアリーダーの省略形です。

定番はキャンプ！子どもたちと野外炊事をしたり、キャンプファイヤーをリードしたりします。



ジュニアリーダーIN

よく見かけるところ

- 子ども会行事
- サマーキャンプ
- 新入生歓迎会
- クリスマス会
- 市民祭り
- 地域行事
- 夏祭り
- 盆踊り
- 公民館祭り
- 地域清掃活動
- 放課後児童クラブ
- 児童館
- 老人ホーム



地域のためにボランティア活動をしています。

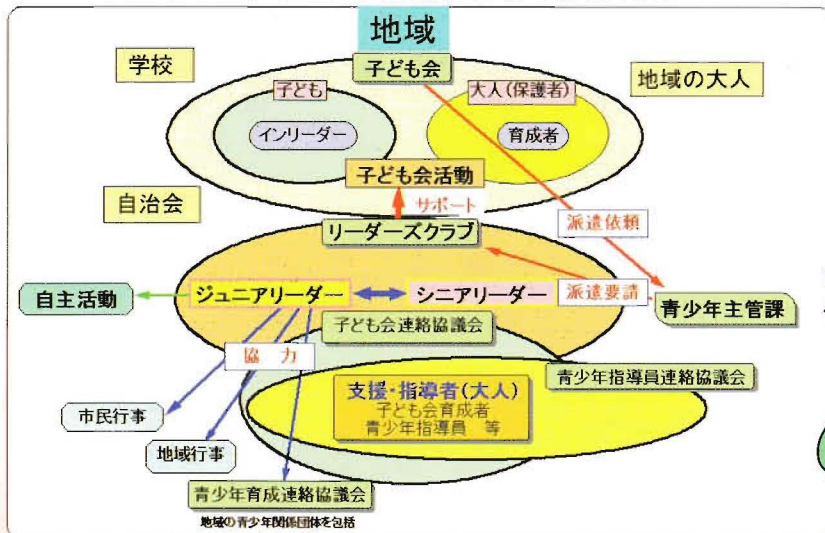
JLの声



大人の方へワンポイント講座 2 JL活動の中心は中学生・高校生です。

地域によってJLCと地域の育成者・組織の関係は異なります。ここではJLCが活発に活動している地域の例を下に図式化してみました。この冊子をお読みいただいている方は、ご自分の立場がJLCとどのような関係にあるのかを考える際に参考にさせていただきたいと思います。

ジュニアリーダー活動と地域との関係(例)



ジュニアリーダー
JLCをめぐる

中でもJLと特に関わりの深い、子ども会、青少年指導員、青少年主管課職員、シニアリーダーとの関係について、簡単に解説します。

J Lと子ども会との関係

大人の力をできるだけ借りずに子どもが主体的に活動するのが子ども会活動です。しかし小学生(中にはそれ以下の年齢も)中心なので、その活動をサポートするために中高生年齢の若者が活躍するようになりました。それがJLの始まりです。やがてJLCという組織になりました。行事の企画の話し合いや実際の行事の運営の際に子どもたちをサポートしています。青少年主管課が事務局になっていて、単位子ども会などから青少年主管課に派遣依頼があると、JLCに派遣要請をして、クラブのメンバーがサポート役として派遣されるという仕組みにしているところが多いようです。JLCが子ども会組織の中にある場合、子ども会の育成者がJLC担当として支援・指導に当たっています。

大人の方へワンポイント講座3

JLCはジュニアリーダーズクラブの省略形です。



JLとSL（シニアリーダー）との関係

JLを卒業（高卒の際が多い）してもJLCの活動に関わる人がSLと呼ばれます。主にJLの支援・指導をする役割です。中にはSLCという組織を起ち上げ、独自の活動をしているところもあります。

JLと青少年指導員との関係

JLCが子ども会組織と独立していて、青少年主管課が事務局の場合など（巻末資料参照）、県・市町から委嘱されている**青少年指導員**がJLCを支援・指導しているところがあります。



JLと青少年主管課との関係

青少年主管課がJLCの事務局になっているところ（巻末資料参照）だけでなく子ども会連絡協議会が事務局になっているところも、主管課にJLC担当が配置されているところがほとんどです。その場合、担当者がJLC活動に関わっています。中にはJLCの活動を見守るだけでなくクラブ全体やメンバー一人にも積極的に支援・指導をしている場合があります。JLCの活性化に担当者が深く関わっています。



様
々
な
人
々

JLが活躍する代表的な行事・活動

子ども会から依頼される行事・活動

「**新入生歓迎会**」「**クリスマス会**」etc

子ども会の高学年が企画した行事のサポートをします。企画の段階のサポートもあります。ゲームをリードすることが多いようです。

青少年指導員と協働する行事・活動

「**市民祭り**」「**ウォークラリー大会**」etc

市民祭りでは、ブースを任されることがあります。例えばバルーンアート。ウォークラリー大会では課題設定や当日の運営補助などです。

企画・運営を任される行事・活動

「**サマーキャンプ**」etc

企画、下見から当日の運営までをJLが主体的に関わり、当日は大人がサポートします。

活動事例の目次

座間市JLCの場合

…5・6ページ

平塚市JLCの場合

…7・8ページ

南足柄市JLC
の場合

…9・10ページ

二宮町SLCの場合

…11・12ページ

あおばRLCの場合

…13・14ページ

大人の方へワンポイント講座 4

SLとは一般的に高校卒業後の年代以降の若者をいいます。

実録JLC夏のキャンプ

(座間市の場合)

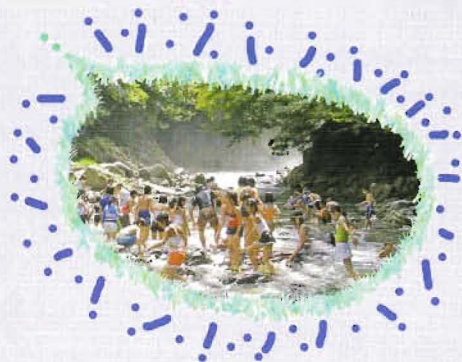
正しくは「座間市ジュニアリーダー野外研修会」と言います。



【1日目】

・出発式 8:30

参加者(小4～6年生約80人)とJLC(ジュニアリーダーズクラブ約30人)&SLC(シニアリーダーズクラブ約10人)&育成者(約10人)はここで、初めてご対面～！



・座間市立清川自然の村到着&入村のつどい 11:30

自然の村でのルールをゲット(大事なオリエンテーション)

・川あそび 12:45

水しぶきを上げながら、子どもも大人も、みんなサイコ～！(°o°)

・プチ運動会 14:45

JLC得意の運動系レクゲーム

・夕食づくり 16:30

定番カレーライス作り&カレーライスコンテスト。

「どれも、美味しいけれど、微妙な味の差が・・・」

カレーライスコンテストA審査員談



・きもだめし(夜イベント) 19:30

仕掛け人はJLC。

怖すぎて直前キャンセル続出！



【2日目】

・ラジオ体操 6:30

大大大昔からの朝のけじめ。

・おまつり(模擬店の雰囲気自然の村で味わおう的発想&昼食) 10:30

お店屋さんがいっぱいで超楽し～い！！

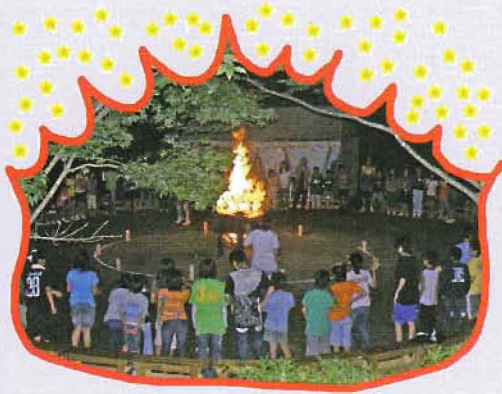
(ヨーヨー釣り、ジュース、お絵かきせんべい、お菓子釣り、

フランクフルト&ハッシュドポテト、マカロニサラダ、焼きそば、ポップコーン、豚汁、チョコレートフォンデュ、炊き込みご飯のおにぎり、バイキングパフェ&ポンチ)

by JLC、SLC、育成者



- ・**工作レク** 14:30
フォトフレーム作り(指導はJLC)
- ・**夕食づくり** 16:30
お子様ランチ風ワンプレートディナー(煮込みハンバーグ、ごはん、サラダ、デザート)



- ・**キャンプファイヤー** 19:30
JLCがメインでSLCはバックアップ、育成者はそのまたバックアップという力関係の中、厳粛な点火セレモニー(火の神様登場!)から涙の団結コールまで大盛り上がり。
- ・**消灯** (???) 21:00



【3日目】

- ・**ラジオ体操** 6:30
朝一から♪メロディーで、自然に体が動いて、すごくない?
- ・**撤収開始** 8:00
これがまた、結構大変・・・
- ・**閉村のつどい** 9:30
キャンプの思い出づくりの最終章。
やんちゃな子どももしばし感動!
- ・**帰着&お別れの会**
See you next summer.
(ただし、6年生はJLCとしてね)



☆☆☆育成者(市子連役員)の声☆☆☆

このキャンプでは、子どもたち(JL)の自主性を大切にしています。プログラム内容や進行関係、食事のメニューまで自分たちで決めたものに責任を負うという、普段の生活では経験できない緊張感をJLは感じていると思いますよ。キャンプを通し、子どもたちは多くのことを感じたり学んだりしたと思いますが、私自身も、自然の中で、人と触れあうことは、とても素敵だと気付かされました。

このページは、座間市青少年課の伊藤さんにお書きいただきました。

☆県外交流体験事業☆

平塚市&郡山市



この事業は、「平塚市ジュニア・リーダーズクラブ」のクラブ生を県外（福島県郡山市）へ派遣し、交流や体験活動を通してお互いの理解を深め、ジュニア・リーダーとしての資質の向上を図ることにより、今後の青少年活動に積極的に活かしてもらうことを目的としています。

大人とJLは、それぞれこんなことをしました

	大人	ジュニアリーダー
4月	・日程確認	
5月	・受入研修内容決定 ・SL派遣依頼 ・本研修時のバス借上依頼	
6月	・参加申し込み受付 ・参加者決定	・参加申し込み ・JLC内声かけ
7月	・郡山市と受入研修・本研修について調整 ・SLと事前研修について打ち合わせ ・必要物品確認、注文 ・事前研修（中旬／日帰り） ・受入研修（下旬／1泊2日@平塚市）	・代表生決定 ・事前研修参加 ・受入研修プログラム打ち合わせ ・受入研修準備 ・受入研修参加
8月	・本研修（上旬／2泊3日@郡山市） ・事後研修（中旬／日帰り）	・本研修参加 ・事後研修参加

この研修は唯一、平塚市のJLが県外のJLたちと交流することができる研修です。そのため、同じプログラムでも自分たちとは違うやり方を学ぶことができ、お互いにとってもいい刺激になっていると思います。この研修で得た一番大きなことは、素晴らしい仲間ができたことだと思います。すぐに会える距離ではありませんが、距離に負けない絆ができたと思います。いつまでもその絆を大切にしたいと思います。

研修内容

★事前研修★

- ・AM: 研修内容の説明。
この研修担当のSLが講師となり、郡山市と平塚市について学ぶ。
主にグループワーク。
- ・PM: 受入研修でのプログラム決定。
キャンドルファイヤー(キャンプファイヤー)のプログラム決定。



★受入研修★

- ・この研修は、事前研修で決定したプログラムを平塚市のJLが運営。
- ・班別対抗ゲーム・野外炊事・キャンドルファイヤー・花火大会などを実施。

★本研修★

- ・この研修は、郡山市のJLが運営。
- ・湖水レク・そば打ち体験・キャンプファイヤー・郡山市内見学・レクダンスなどを実施。



★事後研修★

- ・AM: 反省・感想の発表。
今回の研修で得たこと、今後それをどう活かしていくか参加者が発表。
- ・PM: 研修報告書の作成。

♪☆☆☆☆☆☆☆☆ 参加したJLの声 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆

- ・今回の研修で、特に学んだのは「自分に自信を持つ！」ことです。もっと自信を持って積極的に行動できるようになりたいです。この研修に参加して本当によかったと思いました。(中2)
- ・沢山の人と出会って、沢山のことを学び、沢山の思い出ができました。今回すごく成長することができたと思います！(中3)
- ・平塚と郡山の違いがたくさん分かったし、とにかく楽しかった！(高1)
- ・この研修でJLとして自分自身に足りないところが分かりました。今回学んだことを次に活かせるようにしようと思います。(高2)

このページは、平塚市青少年課の三藤さんにお書きいただきました。

ジュニアリーダースクラフ

南足柄市JLCができるまで

平成一八年度まで

3月実施 中学1年生対象
ジュニアリーダー育成研修会
(1泊2日)

中学2年生対象
フォローアップ研修
(4月から1年間)
=ボランティア活動

青少年指導員の会議を
平成18年度で6回開催

平成一九年度

平成19年2月
市内中学生生全員(18
年度研修参加者には個別に)にJL勧誘
チラシ配布。

4月
JLC発足、
総会

6月
青少年指導員合同研修
会(宿泊)

JLC活動
開始

平成二十年度

本格的活動開始
総会、定例会、青少年指導員合同研
修会、交流会、JL育成研修会、地域ポ
ランティア活動等

南足柄市JLC活動風景



全国植樹祭イベントに向けて、プランターづくり…青少年指導員さんと一緒に作りました。



お泊まり保育のサポート…
子どもたちも大喜び

南足柄市JLの活動の特徴は地域ボランティア活動により多く取り組んでいることです。どの活動も好評を得ています。

青少年指導員さんにお話を伺った際に、「自分たちも楽しんでいる」「ジュニアリーダーの子たちが好き」なんだなという印象でした。

こんにちは。
フーさんです。

今日はジュニアリーダースクラブ（以下JLCと表記します。）の発足を担当した職員のきゅーぴーさんに来ていただいています。早速お話を伺ってみましょう。



フーさん「どうしてJLCを発足させようと思ったのですか？」

きゅーぴーさん「中学1年生対象のジュニアリーダー育成研修会を実施していました。そして青少年指導員の指導のもと中学2年生の1年間でフォローアップ研修として中学校区別にボランティア活動を行っていました。が、この研修が終わってしまうと活動が継続されていっていませんでした。」

フーさん「おや、それはもったいないような」

きゅーぴーさん「そうなんですよ、それに翌年も活動したいという参加者も現れたので、JLCを起ち上げ、活動の継続性を持たせようと考えました。」

フーさん「起ち上げに際しては、どんなふうにして青少年指導員さんに協力を仰がれたんですか？」

きゅーぴーさん「県下では青少年指導員がJL育成を担っているケースが多いと説明しました。また、青少年の健全育成には中高生に活躍してもらうのがいいし、次世代育成にもつながると説明して協力をお願いしました。」

フーさん「青少年指導員の皆さんの反応はいかがでした？」

きゅーぴーさん「南足柄市では以前から青少年指導員がJL育成に関わっていたこと、他市の状況を見て青少年指導員の中にJL育成の必要性を感じていた人がいたこともあって、気持ちよく引き受けて

いただいたと感じています。」

フーさん「JLの募集・育成者の募集はどうしましたか？」

きゅーぴーさん「高校生ではなく中学生からの育成を考えていたので、市内の中学1～3年生全員にチラシを配布、市の広報誌への掲載、育成研修経験者への勧誘を行いました。また、青少年指導員連絡協議会の中にジュニアリーダー育成部会を作りました。」

フーさん「活動をする上でどんなことを心がけましたか？」

きゅーぴーさん「楽しみながら活動できることですね。活動を楽しみつつ達成感を得られればよいというJLの意見もありますし、楽しければまた次の活動に参加してくれますから。」

フーさん「やはり楽しくないと長続きしませんよね。長続きさせるために何か工夫していますか？」

きゅーぴーさん「名札に星印をつけ、会員を継続すると星が増えていくようにしました。」

フーさん「それはモチベーションアップにつながりますね。」

きゅーぴーさん「そのおかげか途中でやめた会員はいません。」

フーさん「なるほど…今日は本当にありがとうございました。」

フーさんのつぶやき・・・

きゅーぴーさん自身が楽しそうで、やる気と熱意を感じました。青少年指導員の方たちにもお話を伺いました。その時、青少年指導員さん自身も楽しんで活動していると感じられました。JLと青少年指導員さんとの関係もよく（研修会はいつも一緒だそうです）、現在も活発な活動が行われているようです。

…みなさん、取材へのご協力ありがとうございました。

サークル活動を脱皮し若者の参画をめざした!



二宮町シニアリーダーズクラブ・恵友会

(高校生以上)

(中学生サークル)

「**地域活動に若者のパワーを!**」をキャッチフレーズに活動活性化パイロットモデル事業を実施しました。

二宮町では、**地域活動の活性化を図るためには、地域活動に若者のパワーを注入することが大事だ**と考えました。そのパワーを、大人のお手伝いではなく、自主的に企画・運営する形で発揮してもらうために若者と大人の合同で「**地域活動活性化研修会**」を開催しました。若者は子ども会の活動などに協力してくれている高校生以上の「**二宮町シニアリーダーズクラブ**」メンバーや、中学生サークル「**恵友会**」メンバーから有志を募り、大人は青少年指導員さんや子ども会育成会の役員さんなど、地域で子ども達の活動を支えてくださっている方々です。

様々な難関をクリア!

県立青少年センターにより、3回シリーズの研修会が企画されました。1回目、**いきなりのハプニング!**講師の先生が体調を崩されてキャンセルになりました。先進的な子どもの参画事例である千葉県佐倉市の「ミニさくら」を紹介していただく予定でしたが、県立青少年センターの方に素晴らしい代役を果たしていただきました。「**子どもの参画**」の重要性を理解して、次回以降に弾みをつけることができました。



2・3回目の講師の方からは、難しい宿題をいただきました。「**ワークショップで出てきたアイデアは、実現させてこそ研修会の成果だ!**」というものでした。そこで、間近に迫っていた毎年恒例の「**子ども会祭り**」の一部の場所・時間をお借りして、研修会の成果を発揮してもらうことに! 関係者の方々には、場所の調整など、いろいろとご迷惑をおかけしました。



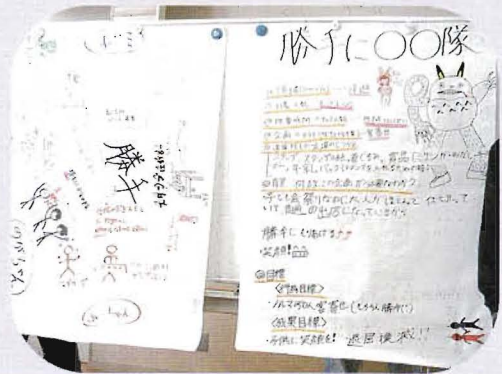


ワークショップ・ワークショップ

いつもは難しいだけのワークショップも、実現可能なプログラムを考えるのだから盛り上がり方が違います。

中学生たち・高校生たちから、自分たちで何ができるのか、与えられた時間と場所を最大限に活用して、様々なアイデアが出てきました。

もちろんサポートする大人たちからも、子どもたちから時間と場所を奪い取るような意気込みで、アイデアをより具体化するためのヒントをいただきました。



若者が参画して「子ども会祭り」が盛り上がりました！

「子ども会祭り」当日は、二宮町シニアリーダーズクラブによる「ペタペタダーツ」のブースが設けられ、子ども達にも大好評！中学生サークル「恵友会」のメンバーは「勝手に遊撃隊」を組織し、会場内を着ぐるみで回りながら、スタンプラリーの台紙を配ったりして大忙し。ステージでは、シニアリーダーズクラブと恵友会による「ダンスパフォーマンス」が行われ、この日のために練習した成果を十分に発揮し、会場内の子ども達を巻き込んで盛り上がりました。

そういえば、大人の参画はどこに？いえいえ、青少年指導員さんや子ども会育成会の役員さんたちに、ちゃんとお見守っていただきました。この場を借りて御礼申し上げます。



この文章は、二宮町生涯学習課の志賀さんにお書きいただきました。

ブーさんの

直撃インタビュー



あおレクって、イケてますか？

※あおレク＝あおばレクリエーションリーダー倶楽部の通称

インタビューに答えてくれた方たち

あおレクのメンバー：**べんぞ〜**（代表、大学生、男性）、**ぴょん**（前代表、大学生、男性）、**さとか**（高3、女性）、：**ひーやん**（青葉区地域振興課の担当者、新卒2年目若手、女性）

(1) 一言で言うとあおレクってどんなクラブ？

ぴょん：中学生から大学生で構成され、大学生10人程度が中心となって活動しています。

べんぞ〜：学生を中心として、8月に実施しているサマーキャンプの中身を企画して行っている楽しい団体。

ひーやん：地域の子どもたちと遊ぶことが大好きな純粋で一所懸命な団体です。とても貴重な人材であると感じています。

(2) あおレクのメインとなる活動「サマーキャンプ」のウリは？

さとか：私は小学校5年の時、友だちと一緒にサマーキャンプに参加しました。知らない人が多く、違う学校のいろいろな子たちと夜寝ないでお話したことが印象に残っています。川遊びやキャンプファイヤーも楽しかったです。

べんぞ〜：子どもには感想文を書いてもらって、文集を作成して後日子どもに配布しています。

さとか：まだそのときの文集を持っています。今でもそのときの友だちと交流があります。キャンプのときにリーダーに憧れを持って、自分もやってみたいと思ひ中学入学後、あおレクに入会しました。



(3) 活動を続けていてよかったと思うことは？

べんぞ〜：子どもたちにかっこよかったとかすごい良かったと言われたとき、感想文に書いてくれるとさらにうれしくなります。

さとか：楽しかったと言ってくれるとうれしいです。また挨拶ができるようになったとか、野外炊事をやったりしますが、家で料理を作ることができたなどと言われるとキャンプをやった甲斐があると感じます。

びよん: 自分は規律を重んじていて厳しくしているのですが、ふと自分が笑顔になったのを子どもが見ている、ああいう顔好きだよとか言ってくると、子どもは見てくれているんだなとほっとします。



(4) 活動を続けていて大変なことは？

びよん: ミーティングを何度も開き、かなりの時間をかけています。無駄な時間のような気がしますが、いいキャンプをしたいという思いが強い人や妥協したくないと思っている人が多いようです。ですから議論して合意するまでに時間がかかります。この時間がかかることが大変ですね。でも、子どもにとってはそれだけ思い出に残るキャンプになっています。

さとか: あおレクの活動と勉強や部活動、バイトとの両立が大変です。

(5) あおレクの活動の今後の課題は？

びよん: 大人(青少年指導員、体育指導委員)の人たちと信頼関係が上手く築けていないことです。毎回自分たちのミーティングに出てもらえると理解してもらえます。年間通して直接あおレクに関わってくれている大人がいません。部活動という顧問のような存在がいてほしいですね。そこで自分は社会人になってもクラブに残り、活動をしていきたいと考えています。地域や大人たちとの調整役・折衝役として活動するのが自分の役割だと思います。サマーキャンプは子どもたちのためにぜひ続けていきたいと思っています。

(6) ひーやんはあおレクのメンバーとどのように関わってきましたか？

ひーやん: 個人的な相談やあおレクの活動に関する悩みを打ち明けてくれるメンバーもいて、よく話を聞き彼らの力になりたいと感じていました。しかし、市の職員として年の近い彼らとどう接するべきか悩むことも多くありました。最初は地域の大人たちとの橋渡しができればと思いましたが、実際にはなかなか難しいと感じています。キャンプに参加して大変だったことは技術的な手助けがあまりできなかったことや、大人たちとあおレクの連絡調整役としてうまくいかなかったことです。今後は地域の大人とあおレクが協力していける関係づくりをサポートしていきたいと感じています。

ブーさん: みなさん、取材へのご協力ありがとうございました。